



上田城ってどんなお城？



自然や歴史がいっぱい 上田城跡公園

みなさんは上田城跡公園に行かれたことがありますか？ どのようなことをしましたか？ 春の千本桜まつりや遠足、自然がいっぱいの広場で友だちや家族と遊ぶのも楽しいですよ。公園は四〇〇年以上前につくられた上田城のあと地にあります。三つの櫓や櫓門、ほりや石がきなど、お城にまつわるものが今もいろいろありますね。櫓や櫓門の中には入ることもできるんですよ。また、昭和時代の初めにできた線路あとや野球場などもあります。よく見ると、公園には長い歴史を感じられるものがたくさんあるんですよ。この副読本を持って、たんけんしてみましよう。



がけの上のお城

上田城はどこにあるところにあるでしょう？ 市の中心にある市役所や学校、商店街の広くて平らなところの近くにありません。そして、上田城の北側には太郎山があり、南側には千曲川が流れています。上田城を初めにきずいた真田昌幸はこの地形を生かすことを考え、てきがせめにくいように「**尼ヶ淵**」とよばれるがけの上にお城をつくりました。がけの上に**本丸**（お城の中心部）が、本丸をかこむように**二の丸**（本丸を守る役目の部分）が配置されています。公園に行くとき、その様子が今でもわかりますね。上田城跡公園の下にあるしばふ広場は、かつて川が流れていました。その場所からお城をながめてみると、せめ落とすのがむずかしい「**難攻不落**」のお城だったことがよくわかります。四〇〇年をこえる長い間、多くの人の手で守られてきたこの景色を、私たちも未来に大切に伝えていきたいですね。



上田城とさくら



150年ほど前の上田城の写真



山あり谷ありの歴史

上田城は、てきの大軍を少数の軍で二度もたおすほどの強いお城だったのに、関ヶ原合戦後にこわされてしまいます。江戸時代になって新たに仙石忠政が城主になると、建物や石がきをつくり直すお城のふっこうが行われ、城主が松平氏に代わってもそのすがたは守られてきました。ところが、明治時代になり新しい世の中になると、西櫓を残して櫓は売られてしまい、石がきなどもこわされてしまいます。空っぽになった上田城はその

後公園として整いられ、さくらなどの木々も植えられてきました。さらに、その当時の人たちの強い思いから、元々あった櫓や櫓門がふく元され、今のすがたになるのです。このように大変なできごとが、次々と上田城をおさしました。どのように今のようすがたになったのでしょうか。山あり谷ありの上田城の歴史のひみつを調べてみましょう。



ふしぎなもようの標柱だね。何てかいてあるかわかるかな？



二の丸橋標柱

尼ヶ淵から見た西櫓(左)と南櫓(右)



上田城年表

真田氏の時代

1583年 真田昌幸、徳川氏の力を借りて上田城をつくり始める
(天正11年)

1585年 第一次上田合戦 真田軍が徳川の大軍をしりぞける
(天正13年)

1600年 第二次上田合戦 関ヶ原合戦に向かう徳川の大軍を、昌幸・信繁(幸村)父子が上田城で足止めさせる
(慶長5年)

1601年 関ヶ原合戦後に上田城は徳川方の手ではかいされる
(慶長6年)

仙石氏によるお城のふっこう

1626年 江戸時代、新たな城主仙石忠政が上田城をふっこう
(寛永3年)

1706年 仙石氏に代わり松平氏が上田城を治める
(宝永3年)

お城のかいたいから公園へ

1870年ごろ 明治時代になり、お城の役わりが終わるとお城はこわされ櫓などはかいたいされ、他へうつされる
(明治初期)

市民の手によるふく元

明治時代初期 上田城に松平神社(今の真田神社)が〜大正時代 つくられ、その後公園などが整いられる

1949年 南櫓・北櫓を本丸にもどすふく元工事が終わる
(昭和24年)

げんざい・未来

1994年 東虎口櫓門のふく元工事が終わる
(平成6年)

2016年 NHK大河ドラマ「真田丸」放送
(平成28年)

げんざい 上田城のふく元のため、発掘調査や資料集めに取り組む

未来 上田城本丸のふく元が進む

